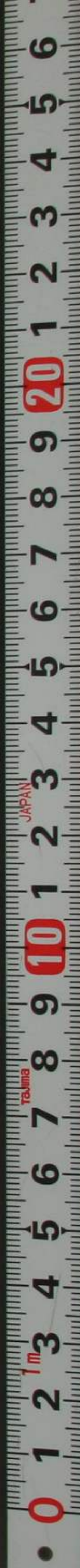


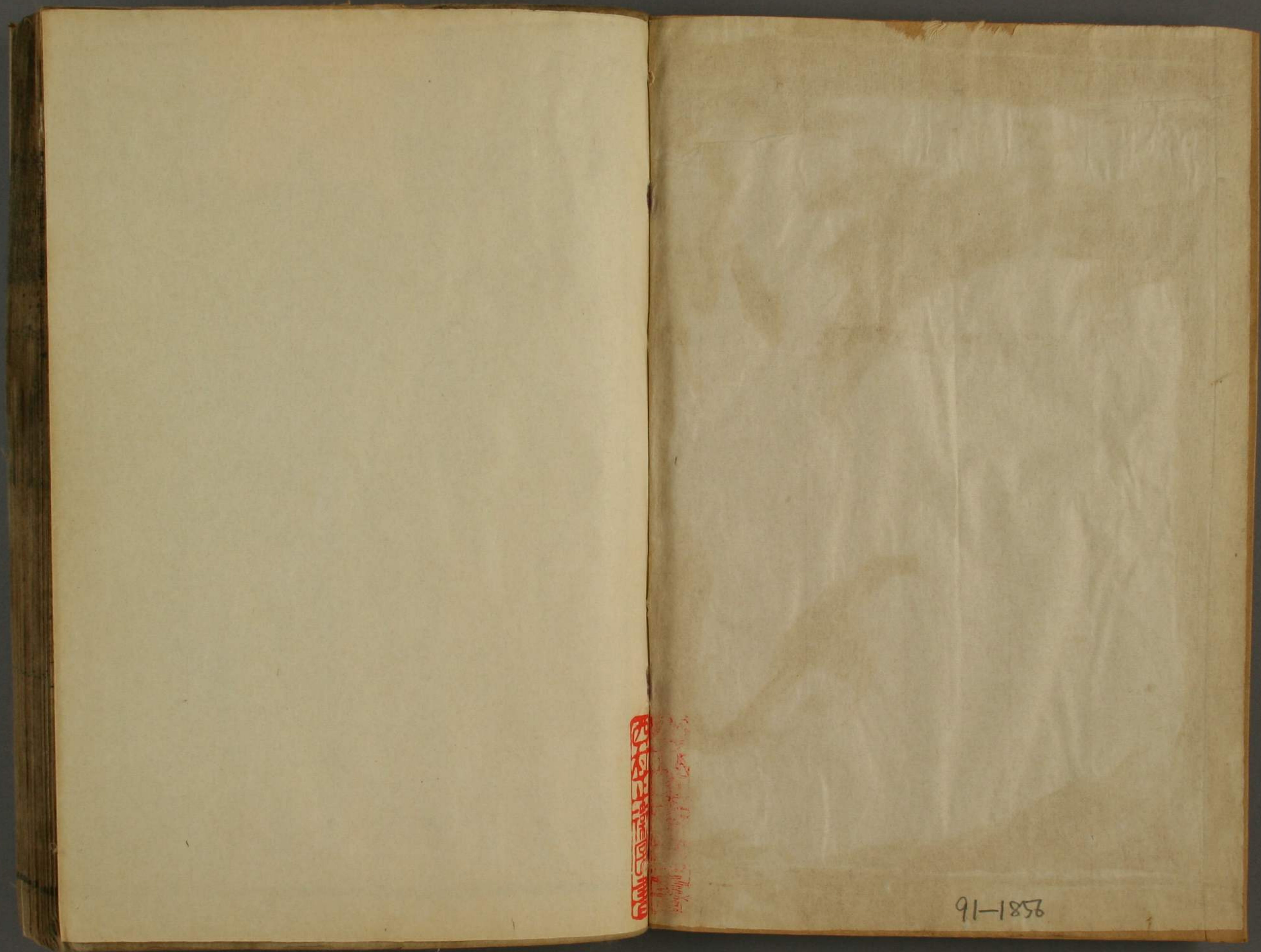


護痘錦囊

石塚汶上尹著
正編

ヤ 9
1081





9581-16

9581-16

示^あし^るる^の第^だ一^{いち}痘^{とう}の^の日^に限^{げん}の^のと^とび^び某^なと^と股^こさ^でて^て死^し
 症^{しやう}ん^んま^まり^りの^のあ^あら^らざ^ざま^まに^に救^{きう}ふ^ふへ^へう^うま^まる^る症^{しやう}某^な用^{よう}療^{りやう}治^ち
 行^あ届^とう^うざ^ざる^る症^{しやう}あり^り又^{また}症^{しやう}より^り實^{じやう}の^の恐^{おそ}る^るべ^べく^く又^{また}
 容^い體^{たい}の^のあ^あり^りと^との^のい^いども^も痘^{とう}に^に自^じ然^{ぜん}有^ある^る症^{しやう}又^{また}惡^{あく}
 魚^い死^し症^{しやう}の^のい^いども^も上^{じやう}六^{ろく}日^{にち}の^のあ^あり^りと^と下^げ六^{ろく}日^{にち}の^のあ^あり^りと^と時^{とき}の^のい^いども^も
 案^あ事^じの^のあ^あら^らず^ず及^{およ}ぶ^ぶ症^{しやう}あり^りその^の外^わ病^{びやう}人^{にん}の^の取^と扱^{あつ}食^{じき}
 餌^え禁^{きん}物^{ぶつ}又^{また}と^とま^まり^りと^と與^あら^らず^ずの^の有^あり^りと^とと^と出^でせ^せら^らひ
 其^その^の本^{ほん}に^にあ^ある^る痘^{とう}の^のと^とび^びより^りて^て須^す知^ち

い^いども^も暗^{あん}記^きト^トが^がて^て況^{けい}や^や素^そ人^{にん}の^の猶^{なほ}更^{さら}の^の事^じ之^の故^{ゆゑ}よ
 初^し終^{しゆう}の^の出^でせ^せら^らひ^ひ本^{ほん}に^にあ^ある^ると^と其^{その}筋^{すぢ}に^にあ^ある^ると^とさ^さら^ら
 當^あり^りと^と急^{きゆう}に^に尋^{たず}ね^ねぬ^ぬ事^じに^に死^しや^やう^うの^の轉^た機^きと^とし^して^てひ^ひら
 候^あ名^なと^との^のあ^あら^らず^ず左^{ひだり}の^の記^きせ^せり^り藥^{やく}方^{ほう}の^のい^いども^も死^しの^の素^そ人^{にん}の^のい^いら^らぬ
 事^じの^のい^いども^も邊^{かた}鄙^びの^の醫^い者^{しや}の^の一^{いち}助^{すけ}み^みする^るらん^んか^かと^と予^よが
 意^いの^のい^いども^も古^こ人^{にん}の^の意^いに^に従^{したが}ひ^ひ夫^その^の症^{しやう}に^にそ^そして^て
 真^ま字^じと^との^の頭^{あたま}書^かき^きの^の記^きせ^せる^る医^い者^{しや}の^の為^{ため}に^にて^て素^そ人^{にん}の

灌膿須知	四十葉
灌膿順證	四十二葉
灌膿險證	四十三葉
灌膿逆證	四十七葉
收靨須知	五十葉
收靨順證	五十四葉
收靨險證	五十五葉
收靨逆證	五十九葉
落痂須知	六十二葉
落痂順證	六十三葉
落痂險證	六十四葉
落痂逆證	六十八葉
婦人出痘	七十葉
妊娠出痘	七十三葉

護痘錦囊 正編

江戸 石塚汶上尹著

初熱順險逆三證須知

初熱痘の母つゝ熱のつゝ痘の轉機第一乃
 初の初又古人轉機毎に順症險症逆症と
 三品に痘の輕重を分つ病後と辨するに
 三品に今轉機毎に順險逆三症の抑轉機毎に
 預はあろえおひの怖るらざることを
 症のゆるるるをゆるてすと其肝要の夏
 除へ順險逆三症を尋ねべし



一痘熱と傷寒の熱相似し

○眼も腫る

○舌の紅い

○びつたる

○汗も熱い

○寒気あり

○汗も熱い

○頂脊こてる

傷寒は

痘瘡

但 痘は風寒の症より起るなり
是ハ外邪と帯るなり

一熱の長短と辨むべし

○熱の長ハ五六日にて痘は

○熱の短ハ二三日にて痘は

但熱ハ二三日にて痘は熱さむと本意

毒の滯り多し 不吉

毒の滯り少し 凶

一唇舌と辨むべし

○唇舌の紅い

○唇舌の白い

○唇舌の腫る

○唇舌の爛る

○霜ノ下の下を苔と生ずる

善

悪

毒壅 清解散
虛弱 温中益氣湯
肝氣 疏肝透毒飲
未明 導赤散

一驚悸并目とひきつけ

○毒壅と毒の盛るるに

四種 ○平肝肝氣あるに

○痘と定めかた又外に

○目と引つる 吉

○おろたひくく 吉

○驚奔して先なるあり

是れ熱毒の盛るるに或は在るに
熱毒の盛るるに或は在るに
熱毒の盛るるに或は在るに
熱毒の盛るるに或は在るに

七日以前

火九極上薰肺
孔竅閉塞
右清胃熱

七日以後

陰凝而陽分虛
陰入氣道
主參芪主附

一熱とあつて

○熱とあつて

一寒戦 ○熱よるあり はんさるる熱

○寒戦 ○本らさるるあり はんさるる寒

脾胃の熱甚下時

○寒戦 ○本らさるるあり はんさるる寒

陽明主肌肉其經
走上下齒齦

七日以後

陽陷而陰分屈

陽入血道

治參芪芍藥干姜類

寒戰交牙

成瘵之際虛寒

當行溫補

一 交牙

○熱ふよる有り
○寒ふよる有り
○熱ふよる有り
○寒ふよる有り

○ 交牙

○熱ふよる有り
○寒ふよる有り

○ 交牙

○熱ふよる有り
○寒ふよる有り

○ 寒戦交牙

○熱ふよる有り
○寒ふよる有り

○ 氣力

弱ハ寒あり

○ 声

高ク大なるハ
ひくちひくちハ

一 諸失血

- 下血 大小便より血のづ
- 吐血 口のどより血のづ
- 耳目より血のづ
- 鼻血

吐血耳目より血のづ凶吉
血のど解毒一先症も重症も變じ一等見事なす

又下血と耳自らの血ので或ハ吐血よ比此ハかろし
鼻血解毒の意本あり傷寒中風是ハ紅汗と
のそ發汗よ比此ハ如ク大キ

一 禁物

- 肉食ウチク 魚鳥の肉
- 餅もち 右ハあつ
- あつあつ 右ハあつ
- 塩しほ 右ハあつ
- 辛から 右ハあつ
- 甘あま 右ハあつ
- 酢す 右ハあつ

痘中とうちゆう のいむ事

- 大小便おおいせうべんのあきあき白しろい
 - 房中ねやの淫りん気き
 - 蚊かの白しろい并な煙けむり
 - 糸いとぎぎああろろののああららひ
 - 油あぶらとと煮に火かききままるる気き并な白しろい
 - 酒さけとと酔よめろろ白しろい
 - 麝香じやくかうのの氣き 但たゞ香かう氣きをを発はつ起きままるるとと押おささひ
 - ののああららひひよよううををけけるる大おほ声こゑ
 - 痘瘡とうそう人ひとの前まへをを髪かみへへくくのの毛けををいいままるる
 - その外そのほかああららひひ白しろい
- 或あるははささううぐぐくく痘とう人ひとをを驚おどろろかかすすべべららん

痘の千百の定

初熱

十二日の数入分を

但てそのひり

見點てそのひ

初一日

初二日

初三日

初四日

初五日

初六日

初七日

初八日

初九日

初十日

初十一日

初十二日

初熱 順證

此症療治を加ふるべき

秘のありて

眼中あざなり

唇舌うろたひ

たたらとせり

吐かざる死

びびくびくはさ

汗いぞ

口中あざいふひあは

水のすめるごとく

水ののりわくごとく

精神うろはて常のど死

精神常のど死

精神常のど死

精神常のど死

○收雷かせ
 身十日かせの初
 身十日かせの中
 身十日かせの終
 右見點身百より
 身十二日追を痘の
 定期とす
 詳ハ痘家須知
 十條のうちあり

○熱一日はて痘りる

と毒さるる
 氣血さるる毒を
 制する
 凶

○元熱ハ三日やどめて

痘りて熱さるるを美とす

吉

但至てかろびは

初熱險證

此症療治甚れハ救ふとす

升麻葛根湯
 方在卷末下做
 之

加減益氣湯
 姜煎

○稀のほく

○吐

○浮

○口かどく

をえすべし

稀のやくいむべし
 吐を止る

○かゝらあさかふ且ひえ熱さく

○のんどかきりす

○面あま志ろく

○大便さるり或ハ生あていづ

○え死やまらぬ

虚寒

發散疎通
荆防敗毒散
敗毒和中散
便秘加大黃

- 吐
- 浮
- せ
- 物身
- 腰
- 腰
- 腰
- 腰

外邪がいのやかろうるが
痘毒とうどくもあひ
毒どくをまうすべし

初熱しよねつは症多しよたり吐をりとのいふも
熱ねつあるは痘毒とうどくの發はつよりかたわらひ
此症吐をりて福ふくの多たる胃中いぢゆう虚寒きよかん
のいふもをまうすべし

宜急散風去痰
清解散

升麻葛根湯

毒壅 清解散
怯弱 温淨益氣湯
肝氣 疏肝透毒散
疑似 導赤散

獲豆帛

險證

- 福ふくのさうらんとして目を引ひけ
- 痰たん甚しんしく
- ううのこ
- 人の見みとけさく
- 福ふくのつたかろく
- 惣身そうしん福ふくのつたかろく

外風邪がいのふうじゃをうね
急きゆう風邪ふうじゃをうね
痰たんをまうすべし

あむらのまじびらくろく
毒壅どくおんと毒深どくしんきあり

- 驚悸おどろび 四品しひんあり
- 毒壅どくおんと毒深どくしんきあり
- 氣血きけつ虚きよ弱じやくあり
- 平素へいそ肝氣かんきあり
- 痘とうと毒どくあり

升麻葛根湯
加大黃
惡熱涼膈散

利咽喉
甘吉湯加牛

- 唇ひびく
- 舌こげ
- 口かじ死
- 耳みゆる
- 眼中より目まで赤く
- 大小便通せぬ
- 声とふらふに

實熱

是は痘毒咽喉へ入りしつるより肺熱は
さすのんどとまらざるまらざる本うの時
ゆづりむせのんど通らぬものなり

毒根血中
涼血攻毒散
涼膈散

積熱症
四五日回失下則七日
定変泄瀉而死
四音
前 泄則七日後 泄

熱盛解肌發汗
清解散
毒甚涼血行血
涼血攻毒飲
虚極
当飯補血湯廣東

上集豆帛正編

毒之類 險證

九

- 身移るる
- 腹をむ
- 眼とち
- 狂気のどとく
- のんど大きいかさき
- 唇舌たむせ死ひびく
- 諸失血
- 鼻血
- 大便より血のつ
- 耳目吐血溺血
- 熱盛する
- 毒甚き
- 虚極

血熱をさす
下後むせらるる死

吉 是より毒解き
毒盛るる八半吉 虚凶
大山
大いふとせ下
血熱をさす毒を下せ
気血温補せ下

○失血諸症をかねてあり

失血の症の由て来るもの其たれらるゝと諸症と
かねて毒のたれせざるかよるゝとたれせざるかよるゝ
さしせざる毒のさるゝとたれせざる毒のさるゝ
血を動かし失血の症をかねてあり

○蛔蟲

○虫と吐瀉

他症なる
他症ある
あ

○紙燭みて痘と見らる

○皮の下
○肉の内
あのかよ紅紫
ふかく見ゆる

重

壯實者

加味升麻葛根湯

怯弱者

加味多蘇散
表不可過也

麻黄解表湯

○さしけ

○たれけ

○せりて

○あせりて

○さしけ移りさしけ

○さしけ移りぬ

○づりぬ

○あせりてぬ

○のんごかるとたれせざるかよるゝとたれせざるかよるゝ

○熱は五日よて

○痘のてて
熱る不きぬ

風邪甚

あ
たれせざるかよるゝ

外邪痘毒とさるゝ
たれせざるかよるゝ

初熱逆證

初熱逆證 痧治とがどきう〜痧よ〜
治さるるあぶ〜

○ 頭面^{かたがた}を^{あせ}ぬり〜と死

○ かな^{あせ}青死

○ ひね^{あせ}つぎ上

○ ちくのま^{あせ}たり赤く火の〜死

○ 眼^{あせ}あつ死

○ ま^{あせ}ぢちた^{あせ}と^{あせ}と^{あせ}と^{あせ}と死

○ 眼^{あせ}と^{あせ}つ死

○いた^ちま^らち^はら^いだ

○あら^はら^いだ^ちの^いだ

○あら^はら^いだ^ちの^いだ

○か^こら^たま^まぐ

○あら^はら^いだ^ちの^いだ

○ひ^ひこ^こら^いだ

○あら^はら^いだ^ちの^いだ

○あら^はら^いだ^ちの^いだ

○あら^はら^いだ^ちの^いだ

○あら^はら^いだ^ちの^いだ

○あら^はら^いだ^ちの^いだ

○あら^はら^いだ^ちの^いだ

○あら^はら^いだ^ちの^いだ

○あら^はら^いだ^ちの^いだ

○あら^はら^いだ^ちの^いだ

○あら^はら^いだ^ちの^いだ

○あら^はら^いだ^ちの^いだ

見點須知
いそろひいそろえ
けんてんすうち

一肌膚善惡

○肌膚

あまやうにうかひつやある
かたやうにまろ死つやう死

凶吉

○指を頬を

○地のいろ白くかたなり
指をひひくまのいろかへる
○地のいろそのまゝにて
指をひひくてもかたらぬ

凶吉

一見點部位の見方

○面部

○手足

順

かへ
あしに足え
こゝろに足え

逆

○かか
○眼より上
○眼より下
のちりあえ
さるふれえ
のちりあえ
順
逆

一 痘の形色

○丸くきよく
○らんがうそびえ
○ふくまりとわろく
○大つぶらう
○うりあまき
○ひらくた
○あじあつ
○ちのさた
嫌

色

○明ふらうわひ
○りりのあつく
○ぼやあつ
○うすらき
○こげのらたまる
○うらみささぬ
嫌

貴

○本のものでた
○あざごのみのでた
○痘のあまき
○地の白さ
○痘のうらつ
貴
嫌

一 痘瘡と水痘との見分け

○痘瘡
頭面よりいで
熱おげ
風をふまう
野かさいり

○水痘
全身よりいで
熱ゆるあつ
風をふまう
野かさいり

一 痘瘡と麻疹の見分け

○痘瘡
根肉の内より
根入きとめてあつ

○麻疹
このほの外より
肉のうちに根入

見點 須知

見点
 ○淡白 氣虚
 ○過赤 熱毒
 ○吐汚 内虚
 ○便秘 内毒
 ○汗出如濡 表虚
 ○肌膚乾枯 表实
 右謂六候
 見点三日之後未全
 出於解毒之中宜兼
 發散若專寒涼則
 痘遲滯不出

一 唇舌

○唇舌
 ○潤
 ○苔
 吉

○か
 ○あ
 ○あ
 ○あ
 ○あ
 ○あ
 凶

一 出疹の目あて

○の
 ○の
 痘
 是

ての
 け時
 志

一 熱毒盛のり

見点
 を解
 時
 本
 津液
 り内攻
 志

一 悪痘あくとうも治ちまき見ま所ところあるま吏し

悪痘あくとうのま

一ツニツ紅活こうかつでのめありバ

凶きんとくも治ちま

一 一身痘いしんとうあり

死しのみならず

一見けんあり初はつ白はくううて水みづのま死し

一 見けんあり初はつ白はくううて水みづのま死し

○唇舌しんじつ赤紅せきこう虚きょあり

三日さんじつの後のち痘紅紫とうこうしにま変へじ

○痘白とうはくううて水みづのま死し

虚きょなり

○舌苔じつがいあり

一 見けん点てん白はくううて水みづのま死し

○痘とうかり

氣き至しアアを

血ちを補おぎなふ

○精神しんせう落おちつつす

大毒盛だいどくせい

不治

○痘見とうけんふふまま頭あたまへあせあせるることあり

一 大便だいべんつつき

○舌苔じつがいあり

血熱けつねつなり

毒どくあり

涼血攻毒飲

本ほんううららかかりりののんんどどののここをを腹はらににて
痘山とうざんと上かみありののるる見けん点てんののららちちををやく
血熱けつねつとささままふふべべ

一 疹とさしそいひ

痘の目

○大小のちくの癩のど死出

○わらく紅さわちく

皮肉のうちにかさふふあり

夾疹とふ

夾疹とふ

一 痘數粒いで又引

氣多その外別条と死

陽痘とふ

疹のちのち

○痘惣身へいで色もよく顔色はやくくして三日目かてていづく引とまある其ま神申もあらわれば死と知はるる其の如く引とて精神さうなる平生に替るるまこと疹也り痘と引込前より必りえ苦むべし

一 痘いで身熱さるぬ

毒のちのちとん 險症よとん

一 汗いで痘の色えく変む

必死

一 脚氷のてくひら

氣のま下へ行

妨む

一 痘少しうい

○声かき魚んど

○声つぎういであ

重

○か不目とま瓜のど死

死

○口中とまたと鼻とつらぬく

死

一痘のつらさ美をば

○皮をすくひたり
二日目をて大よ

悪氣にあつたもの
後かろふがたき
死

一腫物

○なれていそね
○又いそね
痘のつらさ重

痘のつらさ有
死

一紫の血を吐く

○唇舌うらや
○痘形色

不治といふも
遺毒として父母の毒と受てま
是内毒のつらさ解せ
不凶

○舌苔ありて熱し属ハ
大黄世硝大共

一賊痘

○こびりた痘救

賊痘といふ

一喉子痘多き

○早くのいそ毒とさるす

多らざる本うその中頃より湯水にむせび
食餌のいそ通らず初三四日のうち
療治さす
かたし

○六日前ハ 肺熱をさるす

○六日後ハ

咽 通飲食如居
喉 通氣如居咽
之前

射干鼠粘子湯
又加下藥
多麥清補湯

養豆帛

見點 須知

痘の初めて凡ある
 日を見點といふ
 是は公にさうさう十
 二日の下下も一
 日と定む即ち下ふ
 幾日めといふは
 日よりさうさう此
 日を倍するの通り
 身一日
 できろひのたふ
 身二日
 できろひのたふ
 身三日
 できろひのたふ
 此身三日を医書に
 出齊といふ

見點順證

此症より服さざるとあ
 づきのあづ

○熱

三四日にして
 後さめて痘も

氣血盛

かろ

○痘

見えて
 顔の色あざあ

○眼

中あざあ

○痘

ツツちちくあらくち

○色

大小ちちく玉のどくち
 但三ツ五ツあざあ

できろひ 順證

一熱一日或半日あつたあつたとてきどき瘡かさの密ひそ

一四五日よちよちとて瘡かさの密ひそにいたるまく平生へいせい躰たいにいたるま豆まめのごごとくとくたるま

見點險證けんてんけんしん

此証このしんのあらあらむむ救すくふまず

十神解毒湯 加大黄

涼血行血煎散 十神解毒湯 加護散

前方 加大黄紫根牛房 連翹

○身熱しんねつささらず

○唇舌赤しんじつせき

○大便秘だいべんひね

○瘡かさの身熱しんねつと

○舌黄苔しんわうたい

○瘡かさ紫黒むらさきくろ

○身熱しんねつささらん

○肌内ひうちとまとまひひる

毒どくううららるる 血熱ちねつささらんらん 毒どく軍ぐんととくくくくいいととくく

毒どく軍ぐんととくくくくいいととくく 血熱ちねつささらんらん 血ちををららんんととくく

同

清血解毒
十神解毒湯
清毒活血湯
便秘加大黃

肝肺胃火熾

清血攻毒飲

- 頭焦黒き色とあむむ
- 瘡紅紫よりの
- うへこと
- 大熱かまぬ

血分毒さへ

○咽し

○眼あつた

○唇えま

○耳火のてま

○瘡

○瘡

高くとびえ
つやうつる
色うらむ
たまむ

きき
清熱し
七八日の内鼻血

凶

清涼攻毒飲

涼血攻毒飲
遅則難及
血熱軽者
十神解毒湯
加枳殼玄明粉

- 山あが
- 色むらさかたうらひうらにつやあり
- りごえうらうら狂気の如く
- のねど
- 口かた
- 唇舌かた
- 顔色かた
- 面眼火のてま
- 半豆水のてま
- 大便のてま
- 小便のてま
- 唇舌紫紅苔まかくかた

毒も甚う

毒血中あり

補氣托瘡
固陽散火湯

○熱さるん

○氣さき死

○瘡の根ひきたず

○肉腫ひく

は瘡早く表と固く火熱と散ぶと
紅さき終るは表虚して皮うすく
かせういり内攻して死

清毒活血湯

○内さく

毒裏あり

毒と解
熱とさぬ
血とあさる

升麻葛根湯

○外さく

毒表あり

毒とさぬ

清涼攻毒飲

○瘡ひで快からぬ

○大便秘と

内は実熱あり

○大便ゆる

内虚 下利して
津液さる

渴 補益氣湯加麥
不渴 温中益氣湯

○色白く

皮うすくして
根うすくして紅さる
表は虚
裏は温補とす

人多飯甚湯
十全大補湯
遲則痒塌而死

○瘡白く

○山あけて手うすく

虚

○根うすく

○後さきよくかへりて涼さる

温中益氣湯
大保元湯

大温補氣血
木香散
異功散

加減益氣湯

氣血虚

氣虚

- 身ミをころく
- 痘トウをころく
- 唇舌シブツあかをく白しろく
- たれ死し
- たらんごり或水みづをごり
- 半はん豆とう種しゆをまき
- 痘トウの根の生まらず赤うて
- 山さんあがびど
- 色いろ白しろく
- 肌はだうるらず
- 飲いん食じきおひくひひ
- 大だい便べんをごり
- ののどからぬ

神效散

射干しゃく煎せん粘ねん子し湯とう
六日後
多た麥まい清せい補ぼ湯とう
首しゆ尾び甘かん苦く湯とう解かい

- 痘トウの根の生まらず赤うて
 - 根ねの生まらず赤うて
 - 紅こうをまき
 - 色いろ紅こうをまき
 - 胸むねに痘多おほき
 - 喉のどに痘多おほき
- はらんごり或水みづをごり
ふかりのころひのさまりにたらぬやう
たらんごり或水みづをごり
ふかりのころひのさまりにたらぬやう
ふかりのころひのさまりにたらぬやう
ふかりのころひのさまりにたらぬやう

針後四聖膏點之

急以鍼鋒排破
使爛洩毒
急與涼血攻毒劑

○頭上つちの數粒まじりをあらわし 无毒痘いどくとうとす

このうち一粒大いりかか
是公急いせき針はりをさすうんまのつけかせの後のちの
ふまのころまのべーいさて並ならぶ數粒まじりよりして
血氣ちいきを全ぜん外がいの痘とうとせず

○一たびいちたび熱ねつ一いち

頭面づつの中なか大痘おほとう數點まじり出で
外がいの痘とうのでぞ

熱ねつきこらぬ
是ハこ急いせき針はりをさすはきこらぬべーいさては
心氣しんきとさぬべー

十全大補湯

敗毒和中散
清熱解毒湯
俱加大黃

○白痘はくとう

○粉こなをわらうくころこの中なかで

○山やまハ上かみてもまをのらうふまと

氣血虛

○寒戦さむやみ交牙たがまじり

○七日ななひ以前いぜんハ 熱
○七日ななひ以後いごハ 寒

發熱須知はつねつしゆちようこと

痘赤とうあかくかくとらふま

○腹はらのここ
○大便おほんとらぬ

毒どくをとくて存ぞんぶ

痘とうのここ



腸胃穢濁臭毒
十神解毒湯
加大黃石膏

痘でそろうて

○火熱のまごひらんで

○かみまわつ

○眉と眉の間

○たまをくら

○あうあはと

痘いぬ

内に毒候と

ふまへ

見點逆證

痘毒治とがすものいふ
ことくすべし

○豆の甚くも死

たつちやち熱いひて忽ち死に
或熱半日或一日にして死す

○痘いどく

○大熱中ぬ

○たまをくらぬ

○あうあはぬ

○たまをくらぬ

○うへとやまぬ

- めいそんくろくさきぬ
- ひちめうにてさうたあうた
- ひくつたきぬ
- 人の見よけるたきぬ
- ひきつひ 物さうてきぬ
- 精神さうてきぬ
- 腰さうてきぬ
- 腹さうてきぬ
- 脚さうてきぬ

- つらう
- 頭さうてきぬ
- 面さうてきぬ
- 面青さうてきぬ
- 頭あさうてきぬ
- 目さうてきぬ
- 口さうてきぬ
- 唇の両さうてきぬ
- 声さうてきぬ
- たんざさうてきぬ
- ひささうてきぬ

○痘以前腫物を患

○痘

- ちりもかきもるた
- ひらてく牛よさるぬ
- 形かきまーくーとまひつるたぬ
- 志すあろ
- 麩のどた
- 汗ぢのどた
- あけのどた

○湯玉のどた

- のそひぬ救ふひのどた
- かひこの種のでくとまろ
- へびのぬけがらのどた
- みえのかまのどた
- 皮のうちよかまのどた
- いでく又かま
- 出そろりぬ
- かたたりまて
- あくどくあつた
- 灰のでくとく白さ

一日紅点如蚊咬者
非痘
乃毒盛為風寒呀
逼不能發越宜用
敗毒散使表清熱
熱退身涼紅点自出
皮肉中壘々紅点稠
密
以薄荷湯調退火
散服之
以半房子末敷額
門上以散熱毒
此非独能使痘稀
又且免毒侵眼

- 皮のうすすた
- 皮のうすく紅く潤あはれずかまはれ
- 根の紅き血色とちりり
- 根の紅きまろこころ
- 山くろ引く
- 山のくろまらん中針の穴の如黒く点有
- 半豆先よんで頭面あまそていづ
- 眉以上まろ赤紫の点いづ
- 腰より以下痘をまて上見えぬ
- まごらのあちいづ
- 泡のどためいづ

- 塊かたまりいづ
 - 痘疹うぶまろいづ
 - 舌の上痘ぶだうかまろいづ
 - ちんせいのうらおめてへ痘いぬきいづ
 - 唇舌へまろに多くいづ
 - 胸むねの前まえ多くいづ 前まえあまろ
 - 眼まなこち多くいづ
- かまろいづて地腫ぢしゅいづてまかまろいづて
 まろ眼まなこいづてまろいづてまろ眼まなこ中なかいづ
 かまろいづて止とどまろいづてまろいづて
 六十二丁ミナト

○肩と脊とよ多き

肩は肉井との穴あり肩井肉中水乃暗病の地とそあのかより所るはは所り瘡多れはあの方とまらるあま
背五臟六腑のから所るはは地瘡受けは五條の氣は下

○臍の内

二三粒ハ四五粒ハ

○一粒別して大きくひりかざれ

少一時々らりて引とむ

賊瘡といふ

○一粒さらめて大きく赤きものらりて赤き

針灸つまこ
かぶるべし

治法

清涼解毒

使瘡易長

清涼則

無血熱枯燥之患

解毒則

無癰毒黑陷之患

是大法也

常者 可必

変者 不可必

起脹須知

一 頃症とくく具らびとるども面部のらち

一粒二粒美しく水を持らるあは吉

一 微熱ある 起脹の常候

てとらひては身體まで一きとらりてとてたぐ一毒の表のらりあは身體くらげのたあうそのたは見点の毒の表へのであはりて元毒の瘡毒を著して濃くするんときらるあは微熱のらりては自然あはるる志とらりては候とす

○全熱氣をたへ 元氣不足 瘡をこわがし 不善

一轉機あの甚た々た死し 吉よふあらせ

星ほしらら表へ虚うつ毒どく盛さかるるのの中ちゆうううふふかかりり地ぢぢぢれ
引ひででのの内うちへへ引ひここむむ多おほくくはは疔ぢゆうううへへんんどど来きるる

但たゞいいろろててかからら死し病びやうはは例れいふふああららびび妨さららすす

一假脹あ

○瘡そうのの色いろつつややううととのの人ひとどもども

指さめてめてああせせるるここちちふふををささすす

紙かみそそめめててかかんんすするる

内うちららくくとと死しととわわややてて溜りゅう理りののどどたた

是こゝにこゝ假あ脹あ又また空くう觀くわん喜きととのの心こゝろ急いそぐぐ表へ表へ心こゝろ急いそぐぐ表へ表へ心こゝろ急いそぐぐ

遅おそくく死しるるはは疔ぢゆうううへへんんどど来きるる山やま引ひてて死してて

凶

方可見險症

一瘡そう黄わう土どのの色いろののどどくく神しん彩さいるるたた

是こゝとと假あ脹あととのの

神しん彩さいああららのの真ま脹あ也なり

○神しん彩さい
○彩さいはは

瘡そうよりよりあありりてて中ちゆうどどくく
瘡そうううららひひててああららすす

凶

一眼めをを鼻はなととかかるる

○五ご六りく日にちめめ 眼め閉ぢゆう

吉よとととと

○五ご六りく日にち追お 眼め不ふ閉ぢゆう

ああららびび但たゞららびびとと

但たゞ眼め封ふうとと甚た々た其その後のち眼め疾ぢやくをを病びやう

○眼め 吉よ
○ままちち焼やくかかぬぬ 凶あつ

起脹須知

三十

一下劑

毒盛るまばあともあうその中まば
下まのもあうあうまのほま毒あま
まもあうこの妨とあま下劑ゆま
かすうまでもたまく下劑のゆ
病あり本うその魚にんを

一衣類

- 五日前ハ常のご
- 五日以後ハ暖く暖ま

一禁物

瘡の虚実極重ううのむまの食を
まのあり

- ゆま
 - あま
 - 魚
 - 酒
 - 白酒
 - 極重やて
 - 山あひのり
 - 大実極重のむ
 - 瘡軽
 - 瘡重ハ虚実ま
- 饒るにてあま
白酒のまん
食む

一虫のかねらう

○初熱 きんが 妨るきんが
○水うそのまらうきんが 妨とるきんが

一虫のうらふひ

○からあつたをきかまぬ
○たれたるをもくむるまきこむ
○たれたるも
○さむけいあつたを熱いあつた
寒熱まじりゆ

○虫と吐くあ 十が二三吉
生あ 九死一生

見点より牙四日と

なり

牙四日を倍ま

水うその初ま

牙五日

水うその中ま

牙六日

水うそのあまひ

牙六日を医書ま

蒸長ま

起脹順證

は志茶とくますと自あ

○洗まのいでて先たしくあのち

○瘡の根のまらう紅くあ

○山まくくあと地あ

○かまとあと地あ

○眼まもあとあ

○飲食常のあ

○大便常のあ

○四五日あ

餘症あく平生あとて
瘡豆あのあ

順吉

起脹險證

此症亦由のせれが故に

○瘰癧紅赤小て

瘰癧の紅赤小て

○瘰癧の頂紅赤小て

瘰癧の頂紅赤小て

○山らあげても

山らあげても

○山らあげても

山らあげても

○形丈下りて

形丈下りて

四物湯加多麥骨皮

清毒活血湯

四物湯
如人多麥骨皮
外用胭脂塗法

清涼攻毒飲
方在卷末下倣之

清毒活血湯

保元湯

○保元湯紅くろくろひ
形ひらく

血有餘
氣不足

氣を補へ

十全大補湯

○十全大補湯形ひらく
色かきうらひ

氣血虚

大氣血を補へ

加減益氣湯

○加減益氣湯形ひらく
色白

氣虚

大氣血を補へ

大保元湯

○大保元湯形ひらく
色白

血不足

血を補へ

清毒活血湯

○清毒活血湯形ひらく
山あけぬ

血熱

血を補へ

前方

○前方形ひらく
色白

血熱

右同

大保元湯

○大保元湯形板のどく
ひらくかた

血帯

毒解さ

同方

○同方かちひらく
せらぬ

氣虚弱

毒をこらぬとわらぬ

急攻

○急攻中へ高して
中へあ

氣不足

毒をこらぬとわらぬ

實氣飲

○實氣飲中へ高して
中へあ

鬼瘡

辛涼解肌

○辛涼解肌中へ高して
中へあ

肌甚か

毒をこらぬとわらぬ

錢氏白朮散
去葛根如主

○惣身山分上て
身はどろろ山とよめ

脾胃虚

涼血補氣

○紅く黄くくもくもく

血解とあて

人參散湯

○指小ておせくくちくち

とくふとく

不則後必痒塌而死

前方

○瘡のかじむろりともてあつた

使氣血交會方能
化毒成漿

○瘡のかじむろりともてあつた
軽ハ 生
重ハ 死

大保元之類

○山分上てくくくも

是は假服と云

投氣実膿

○皮膚のうろくしてなまさらん

虚忘よと

不則十二日必不能

○瘡のまじれたらり

危し

回謝不收結而死

○おせくくちくちくち

大温補氣血耗裏救

○冷やうろくひあて

右と同

多飯散湯加主

○多のひくやのどく

不則八九日間痒塌

○根のまじれたらり

十二日為内攻痰喘

○紙幅を照してまじらるるど死

氣急死

潔古白花蛇散

○寒戦

腎氣の衰へ

瘡とむべ

龍眼肉酒温服

○交牙

真陰不足

恐るべ

○初熱の時

熱毒とてさむ毒脾胃のち

○あうこの時

脾胃の熱はくくかつて虚を似

○本うこの時

瘡向きの虚をち

温補とて

○瘰癧んくひらてくろく
かろくろくんく紅腫

虚実二種あり

○虚
○赤白
○赤白

温補とて

○實
○赤白
○赤白

経路をさぬ
毒を解毒

○瘰癧の生るる小瘰癧なり
是れ瘰癧瘰癧なり

毒盛るととも
内毒とてく

○瘰癧
あつて

最重
内毒をさぬ
毒を解毒

○瘰癧ひきこむ

内毒をさぬ

内托散
加穿山甲强蚕

托裏劑
兼與安神丸

發毒
加曲麥

○食傷して瘰癧なり
後をさぬ或はひきこむ

脾胃の氣をさぬ

發表魚燥濕
内托散

○雨あつてあつて瘰癧なりぬ

表をさぬ
あつてさぬ

○形をさぬ

氣をさぬ
あつてさぬ

錢氏白朮散
加風芷
不可太過太過則損
蒸之機

○瘰癧不深よりさぬ

内毒をさぬ
外毒を解毒

清熱解毒湯

○旧來瘰癧物ありて愈む

凶多し

内托散去毒加毒力

○熱あり
○熱毒さぬ

経路をさぬ
内毒をさぬ

保元湯
加糯米圭丁

○瘡せうのせうでせう

ちひさ穴あなあり

白くむせやく
肉のよめどた
急がす

蛭しゅう瘡せう

肌かわのきあわく
大おほくく氣きか
瘡せうととああららせせるる
急きうにに補ほへへ

吉不至齋藏

起脹逆證

は瘡瘡せうせうははかかどどりりききせせるる
こころろくく接せつぐぐすす

○瘡せう勢せう身み盛せいままてて頭づ面めん上じやうににぬ

○瘡せうででんんくくよよひひままでで刀たうををええぬ

○五ご二に日にちよよいいてて出でてておおそそろろををぬ

○引ひききてて穴あなああららてて針はりのの穴あなののどどたた

○患わづくくくくららききののどどくくかかたた

○山やまああげげててひひららいいたた

○ああそそののちちりりししききんんくくかかててききんんくくかかららすす

○ししええててああららわわりりししきき

○ 寒けつろひ

○ ちぢたま

○ 息ぎこせ

○ ちぢらう血のづる

○ のんどかきまをふ湯あそひ

○ こんのんどめてせつりきまふ基

○ 晝夜啼てまふぬ

○ 腰りこまふぬ

○ 腹のこまふぬ

○ 中まふぬとてまふぬ

○ 夜まふぬとてまふぬ

○ 唇舌

○ 唇舌

○ 唇舌

○ 唇舌

○ 唇舌

赤黄赤焦
黒赤くもむけり

唇舌の紅はこまを風ちろ一のてたものみ

唇舌の紅はこまを風ちろ一のてたものみ

唇舌の紅はこまを風ちろ一のてたものみ

唇舌の紅はこまを風ちろ一のてたものみ

唇舌の紅はこまを風ちろ一のてたものみ

唇舌の紅はこまを風ちろ一のてたものみ

○ 丹疹

○ 丹疹

○ 丹疹

○諸失血

- 目より血のり
- 口より血のり
- 耳より血のり
- 鼻より血のり
- 大小便より血のり

但 實志毒壅へ失血より毒解とあり
 是ゆて死症も重きよ後出るとあり

凶 凶 凶
 妨る
 甚い凶
 虚志へ凶

治法

七日 托裏排膿
 八日
 九日

温補気血使痘
 易成膿

是大法也

常者可必

變者不可必

○毒未及解

干温補中兼解毒

若偏燥則毒盛

不能化漿

灌膿須知

一 微熱のり

本膿の常候

是元気の毒をむして膿を化せしむるなり

一 声ひくるる

本膿の常候

是のんど痘を故なり

一 痘のこむ

れんうの常候

痘のたつて表毒をく出さるなり

痘のこむ

一 地をこむ

七日目より下をこむるなり膿の下迫を止むるなり

一 かなの甚早き

凶

毒内へむるなり

但ゆるてかるる六妨なり

一 六日の後
あつたら膿を見べし

○膿あつた 生 毒化しとうもろこし

○膿あつた 死 毒化しうらね外へ去路なく
内へ内攻するゆゑなり

一 膿色
○黄い膿あつては毒化しうらね外へ去路なく
○つやなく黄土のよぐたきやぐ

一 痘の根
○紅くくるとは毒化しうらね外へ去路なく
○紅くくるとは毒化しうらね外へ去路なく

一 痘の皮
○厚くかまらかまらしてかまらぬ
○うましくかまらかまらぬ

一 皮うましく

内へ水みして

膿よさらぬ

但當生むらく九日と生む七目ゆらわらては症発せ

一 頭面膿のち
死をまぬかたぐ

手豆うまるとぬ

一 手豆膿のち
死をまぬかたぐ

頭面うまるとぬ

一 声とまらわらう
肘膝に必行毒あつて
疔のよと續編よと

一 巾がしつらう心付きまら

- 額ひん
- 鼻準びんじゆん
- 頰かほ
- 印堂いんどう

此高たところかど多は五臓の毒氣のいこも所たかたかど此地中なるは外の出りもたつらうゆもよかたきつらうきかつて

一 禁物

- 酒さけ
- 肉にく
- 魚うしよ
- 葱ねぎ
- 蒜あし
- 胡椒こしょう
- 大蒜たんにん
- 芥子かいき
- 胡椒こしょう
- 胡椒こしょう
- 胡椒こしょう

此症療治せざておつらう
 此症療治せざておつらう
 此症療治せざておつらう

見點けんてんより身七目みしちめあり

身七目みしちめ倍ばいり
 身八日みはち初はつ
 身九日みくにち中ちゆう
 身九日みくにち後ご書しよに
 漿水じやうすい満まんとふ

灌膿順證

此症療治せざておつらう

- 痘うしよの根紅ねあかく糸いとめてくろりしる如ごとく
- 痘うしよのいせえ白しろくへんぐ
- 膿うみあつらと手てあつくとえ
- 痘うしよいこも
- 少すく熱ねつあり
- 氣きさたさうあ
- 飲のん食じきよと
- 大小便だいせうべん常じやうのど

吉

一痘の少く

四五日して平生躰を
血豆のどくあり

五六日して

血層痘といふ
のりてなり

但痘多きはゆんまじりて
是ハ險證といふ

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

内托散之類
回陽返本湯
或多甚鹿茸湯
建中湯
方在卷末下倣之

回陽返本湯
寒戰交牙
異功散
又建中湯

灌膿險證

は志んまのにあらざれば
まことべからず

回意太早

中
早のまなす

膿とのりやのりやとあまぢかぢか
はらへんかぢ地を引是毒内へ引る是と
倒層といふ凶
但膿を引るものありてかぢかぢか
はらへんかぢ地を引是毒内へ引る是と

痘の色をひのどく白く

瘡ちりてまん

寒戰
交牙
此二種下あり

○寒戦
○交牙

十二日のほかほか山瘧
十四日多く死せしむる
懸死を言ふ

○水うまつやく

水うまつやく
水うまつやく

唇舌淡紅

○唇舌色うす死

腸氣小豆
大便くさく

小腹鳴
前方加丁姜

○下たらしまる

大便くさく
腸氣の極り

大便利
前方加附五分

○膿半のち色うすまわく
大便くさく

十全大補湯加附
若誤用犀角地
黃湯誤入

○失血とがぬ

吐血
下血
失血

大下血を補ふ
大下血を補ふ

異功散
建中湯
七味堂丸
一粒金丹

○膿半のちて

脾胃の寒る

異功散

○大便くさく

脾胃虚寒
氣虚甚

不及則多附兼用
又翁氏一粒金丹
服後須更
安睡
舌紅潤 吉

○痘あきき白ひたるごとく

凶

○痘白くして水晶のごとく
内は膿る死

治しがた

多鹿茸湯

加附

前方奏功則復起充灌空処出贈痘此痘雖小細易灌易面是餘毒得復出言兆也

内十全大補湯加煎

風車

敗草散

象牙散

松花散

赤豆水

蕎麥粉

毒壅於内

驗唇舌微刺之唇舌滋潤忌妄下

外敷百龍膏
内千金内托散

清涼攻毒飲

血症
涼血攻毒飲

言不至齊藏

○痘あらく白く

根通の血の紅もちり

○大補ふて

是れ氣血と云なり補入内より毒を去らせふこびうまじもあかり痘と痘のあひのまはる間へ強痘とのひて小く死痘とのひてはてのの小く死痘とのひてはての毒もさきいり吉兆

氣血虚甚

大いなる毒

○でのめ

つるはな

膿水かきぬ

内 紅血と補ひ
小使交通

外 かけをりま

七八日

○大便のどど

膿のこぼる

○九日十日ふらうて大便のどどとせかしの後
痘うらひひきとて 死

毒深く

唇舌乾苔とて

○痘かきと

坑をとりと

いともくつ所とてほのれ二とて所
大にくまう穴あ

内攻る

凶

○のえど甚うら

○大便數日通せん

○唇舌かたむ黒く

○血症。下血。吐血。たま血

血脈かきさるど

十神解毒湯加減

多麥清補湯
九味神効散
甘吉湯加牛
撰用

○痘のむ

○あたまで実して痛ハ

○紅はかすて

○紅はかすて

膿くらげ

○紅はかすて

○紅はかすて

同 同

○口かた

○ひげび

○せりくせりく

痘のいど
ちり

壯脾氣利皮層之水

四君子湯合多飲
加風芷

毒陷標干上充可免

毒陷標干下充可免

○泡

風わろりあせり
大なる火がまのど

○大サむろろのど

○ひげび

皮膚の溼甚し
皮層の溼甚し

○かにから膿をのち

○半豆膿をのち

○半豆膿をのち

○かにから膿をのち

○頬

○鼻準

○年壽

高死呼吸数多ハ五臓の毒氣集る
母亡一被て氣のまは外の痘疹ハ
肉致とせまはぬ

○ふつと聲耳つづき

○むらむら

○あらか

是ら肘膝のうち、疥毒賊瘡あるべし
あつてあつてかゝる瘡をぬり封じ盡
べし

疥毒 賊瘡

二種をくく續編類あり

○酒 灌膿逆證

空をもちあがすのさか
こころをさかす

○かせ甚早き

○瘡白ひをらふであら

○さしつけぶらひ

○とだまり

○老きりふのいどらひ

○たちまち眼ひらく

○ひと見ごとく紅紫かへる

○やうひりてかた石のごと

○やうまんの皮のごと

○たぐぐくろくうすくら死

○腹るる

○腹のむ

○由氷とのめ直ままらなる

○時々口とをる

○吐くがどくうとをるぬ

○かうるく死

○聲耳つぶまておのど死

○老やくり

○口中のるくてかむ

○面頭腫て太きくるる

○手豆ひえとがぬ

○老らりて

○唇は白くかすのど死のめと生まる

又膿血のつる

口のるまま死

走馬牙疳よるまへ

痘

○紅くむら死

○かまらうくく

○肉はひつて山とあびぬ

○皮層 か死しくらをて洗のてぬ

○皮あつくらぬらういぬらぬらぬらぬ

○膿る死

○膿も水もさき

○内清水とあぐみ

外へ黄土の色ので死

○かまろりした水けひきまろりも死

○ふろろり引こむ

○ふろろり引こむ

○ふろろり引こむ深く穴あく

○まん中黒く引こむ

○まん中のき上りて死

○まん中うもとので死

まろりかじり引けて色黒き

○泡

かもちあまので死

○かろろち

水のてきこ

かもちあま

○かろろち

まあろち血

同く

○かろろち

むらあ血

あまろち

痘

○針の穴のてき穴あ死

かもちあま

うもろり水けひき

○まろり山とあけて

まん中へかむ

○泣やあけて

うもろり白ので死

○形

内め水もろりまろりからろり

○泣や少しもろく
色おとろくろ

○かきかろりて
色よく血まじりつる

○かきかろりて
血も水もろく
色紫或はろ死

かせころえ
收靨須知

一 微熱いづる
但たるるるきあ

一 微のんどかく
但たるるるきあ

一 微かろいづる
但其あきあ

一 微臭
但たるるるきあ

右常候いづるもかせんとて陽氣膿とむ
かろいづるあ

かせの附
常候

かせの附
常候

かせの附
常候

かせの附
常候

一眼ひらく事

○十二日目と定まると

○十二日前 ひらく

○十二日後 ひらかぬ

但 かるた 眼どちうもあり
は十二日の定む重とあり

ひらきまあり

一收醫甚たる死

一 一時かせ一時の間

一痘稀少して

かせのたふ死

大吉

よからぬ 險症あり

死近あり

險症あり

併解毒のころへ

險症あり

一火けありいふすづりつと死

は時生丸の二あり

○唇舌潤

○声ささく

○のしどきく生

○飲食まきまぬ

○大小便常のて死

○唇舌かた死苦あり

○声つとま

○のしどき死

○飲食まきまぬ

○大小便つと死

或はひらき

死

補脾滲濕

一半かせて大便する

かせ半時分の陽氣内へかゝるるり本うまの
ころ陽を表へいつる時と大いことあり

さぬくびり

一 かせらる順

- 一身ハ 顔より胸腹背手足
- 顔ハ 口吻鼻頰眉より上
- 手足ハ 指のまたこのひろ 足より
- 額と豆 髪を死に妨る
- 鼻塗上 まづかせら 凶るまづも死せず

一 面部のまづ膿りせず

鼻塗上まづかせら
 是脾経の毒伏して發せざるなり

一 收りて早き

又血鬻毒をいきてりてかるるあり
 凶急に解毒せざ

一 二時の間にかせ一時の間にかせらる

- 声つらむと坪のどく
- 丸くささる
- のんどせるとつさ

凶

○食ふまぬ
 は症かるる膿不呈る

○大いり癰たつまま 生ぜ

忍冬解毒湯
大連翹飲

血壓痘けつえんとう
一痘とうゆるりて稀少まろく

四五日にて

○豆のどころり

解毒どくどする

五六日にて

○血ふてかせ

おどくうきふる

八九日にて

○痂かさあがり

かみかく

是こは血けつをさうして毒どくをくろりて膿うみをうる

是こと血けつ壓えん痘とうとあり

は症しょうを六むつが九くつ餘あま毒どくあるものなり

一禁物きんぶつ

虚実きょじつをまかせかろりていひきもの

○かちり

○油あぶらけり

○魚うい鳥てうり

○たまご

○酒さけり

但たゞあまざけり

○あなからきもの

右 ○軽かろハ 痂かさ落おちる年としでいひ
○重おもハ 百日ひゃくにち或ある一年いちねんもいひ

見點第十日ゆ
 弟十日と倍
 かせの初
 弟十日
 かせの中
 弟十日
 かせのあまひ
 弟十日 医書に
 結茹とふ
 此十二日とせらるる
 十二日の定めと
 医者のかまらるる
 にあらしむる此
 さくもの賀とて
 りたは似たり

雙豆帛書編

かせ 順證

五十四

かせ 小兒あまひ
 收靨順證
 かせ
 身みとえくとかろく
 才たとえくとひき
 眼め少まづひらきかり
 飲い食常じょうのごく
 大お小こ便常べんじょうのごく
 上うより下したへ前後追々かせ
 少ま熱ねついぞ
 少まかあまひ
 少まととあまひある

○痘とういりて少すくく

且ややくして

うきよるるす

五六日にて

かせる

但たゞ痘とうおのたふもえんまぐらす

いりてかろ

保明百補湯倍木
加風蒼
方在卷下倣之

○痘とういりて少すくく
○痘とういりて少すくく
○痘とういりて少すくく

保明百補湯倍木
加風蒼
方在卷下倣之

除濕湯

保明百補湯倍木

加風蒼

方在卷下倣之

大連堯飲

除濕湯

かせ 險證

痘とういりて少すくく

○水みづのごとく膿うみ流ながしてかす

○たぐまてかすぬ

是こゝに發は表ひととこで表ひらりるまうりるた
るり又ハ水みづと汗あせ山のまて皮層ひふへあまかす
かぬるり

○たぐまてかすぬ

色いろるま白しろき

是こゝに十三留目じゅうさんりゅうめめて又膿うみとらるる

汪氏解毒飲
煩渴加五麥

汪氏解毒飲
加苓連

○膿汁かろず

毒と解
少補

○身移あり

毒と解

○爛て痛甚す

是れ毒物の食せしり

○痘の形色

煙は毒と生る二道あり

飲食常のどく

○二便常のどく

○氣さたるる

○鼻梁上

凶といふも死せず

○面部の膿ごとく膿とのどく

先鼻梁上かたせり

是脾経の毒伏してのびざるあり

死

○かせをくしてかせず

○小便秘せぬ

○大便のどく

○口かたむ

○せりくせりく

是熱毒肺経にかさまりて陰気死

るり

清涼攻毒飲
涼隔散

聶氏建中湯

○かせをくしてかせず

○せらふてこのんどかせ

○さむけらふ

虚寒

○せらふ

○唇口かじれ色紫

唇の口かじれ色紫
唇の口かすのせらふ物生

○かたまりあり

肺の腫と涼
毒と解と

○声たじま

○のんどせりくせりつた

肺の腫と涼
毒と解と
肺癰と病と化と

四順清涼飲

○えりより下 數日かたず

○後あり

血の腫と涼
大便秘と

○食うくくみ

○唇舌赤き

○大便通せぬ

○前症ありて

脾胃と補ひ
小便と通と

○寝るま

○食とまぬ

○痘をくしてかせず
ふろく穴なる

かげと通と

錢氏白朮散
加風吉

点藥
生肌散

氣血怯弱津液枯
竭不能外續其毒
兼虛內入名曰倒
靨

痘發始熱毒盛者
見点之時豫解毒
而後大補氣血以
助灌膿
否則氣血虛不灌
膿故為此症候

○膿とりのび
山とあびせ

○地をまじりひき

○眼をまじりひらき

○痘の根のまじりちり

○痘の皮色白く

○皮をまじりて

痘のかせ豆がらのどき

氣血不盡の極

急を補ふ

急を補ふ

補ふ

又腫がま吉

初痘の瘡治す初熱見点のうちにあつ
毒盛んるもの毒をおひば本うものどき
いりて毒をまじりて毒を不潔し自毒と
毒とちりひきとあせす毒は内外よびひり

れとちり内攻して毒をいりて初熱見
点のうちよ下割かひりて解毒したる
は補ふ一ちらびはなうまかせふ
いりかめど

○かすの出しの

たちちちちちと黒くする

是と假救とのよ

○のんごのち

腫まかりてかせす

○のんごえ

○口かた

○飲食のんごつらきて通らぬ

氣虚 早く補ふ

熱をまじりて

肺胃おとす

急を補ふ

補中益氣湯
甚者異功散

涼隔散甘吉湯
合方加牛房子

- 口唇くびくびしてしまふ
- 唇の上下黄色よかせら
- 腹をさ
- 腹をさ
- 年豆とあがたうごうす
- わがえんころころまじり
- 人の尻をけらる
- 寒けざらひ
- えきま
- 膿とくま
- たまごの黒いもの

- 声かま
- 声のでおのど
- ゆまよむせ
- うま
- からあ
- 絶食
- 寝ぬ
- 寒熱往來あり
- 息せ
- 息せ
- か不
- 豆ま

○よりんかきやうしや
らまがたしやのさくら

○かきやうしかにたまはし上る

○かきの時まてま
時候よあつりける熱きそめ

○かきやうしやまはし

○えりんびのまへつ

○胸のまへ
耳のまへうら

○かきやうしやすく白く
梅のたまりのた

○かきやうしやまへんあしや

け三野
いりりりりり

○かきやうしやちりりあつ

○白く
蛇のぬけがらのた

○肌かきまてたしやく

○かきやうしやまへんあしや

○濃水うらまてままめ

○むのかねり

○初産より水うらまて

○中頃りのち

妨る
妨る
妨る

吐瀉
○死る虫とら
○生る虫とら

十が二三
九死一生

○初より虫けきらるる

○かきまじりてびついでちぢる

○食をまじ

○目もあてらるるくと眠り

○甘のまじりてまじりてせせ

○寒熱かきまじりて性本と

是壞志の甚しきもの

北日の後

大凶

熱実者

大連堯欽

或加大黄或加硝

寒虚者

調元解毒湯

加芍薬桂

膿後痂不落

火盛也

滑石末蜜水調掃

痂上痂潤自落

此法霸法不得止

之術

落痂須知

此症瘰癧治せずして自然の

一痘中膿をのちらるるや否と考ふべし

○十分に膿らりて

○膿不豆めて

後死あふ

虚 實

一痘後麻疹のどなるものづる

吉 是れ 瘰癧

○丹疹のづる

○隠疹のづる

あうくまうにて
あせんのどまき
皮のちよ細にあら

吉 吉

一禁物 かきふぢるべし

一 眼^めふち^ら痘^{とう}多^{おほ}く^りい^らる

かせよい^こりて地^ち腫^{たむ}い^じま^りてもか^かさ^さら^らこ^こあ^あく
とち^ち眼^めも^もら^らく^くとあ^あこ^こも^もと^とゆ^ゆる^る眼^め中^{ちゆう}と
う^うが^がふ^ふ夏^{なつ}も^もあ^あず^ず止^とま^まえ^えと^と得^えず^ずふ^ふこ^こあ^あつ^つる
を^をま^まつ^つべ^べー

眼^めか^かず^ず十^{じゅう}四^し五^ご日^{にち}も^もあ^あこ^こも^もら^らず^ず眼^め中^{ちゆう}あ^あら^らず
つ^つら^らの^の滑^{かつ}石^{せき}の^の粉^{こな}は^は蜜^{みつ}と^と水^{みづ}と^とを^を合^あせ
た^たび^びく^くぬ^ぬべ^べー

見^み点^{てん}より第^{だい}十^{じゅう}三^{さん}日^{にち}

痘^{とう}の^の成^{せい}就^{じゅう}せ^せり^りし^しり^りと
但^たし^しこ^こら^らし^しと^とし^して
此^この^の後^{のち}は^は痘^{とう}後^{のち}の^の
餘^{あま}毒^{どく}は^はし^して^て痘^{とう}中^{ちゆう}
の^の夏^{なつ}は^はあ^あら^らず

落^おち^ち痘^{とう}順^{じゆん}證^{てい}

は^は痘^{とう}瘡^{そう}落^おち^ちせ^せず^ずと^と自^{おの}ら^らし^しめ

○ 飲^{いん}食^{じき}常^{じょう}の^のど^どく

○ 大^{だい}小^{せう}便^{べん}常^{じょう}の^のど^どく

○ よ^よく^くみ^みま^まし^しく^くこ^この^の証^{てい}

○ ふ^ふこ^こみ^みら^らし^しる^るあ^あら^らず

○ 高^{たか}か^から^らふ^ふひ^ひく^くか^から^らず

○ 痘^{とう}あ^あく

八^{はち}九^く日^{にち}に^にて

ふ^ふこ^こみ^みら^らし^しる^るあ^あら^らず

順^{じゆん}吉^{きち}

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

落迦險證

此證之在...
此證之在...
此證之在...

○ 痲久くわらぬ

- うつ高く鶏の糞のど死
- うすく竹の中の紙のど死
- 肉へびつのであつぬ
- 半こびつぎ半落うりもくくさる
- ろこのまろりに薄き白さまらあつ
- ろこの色煤のろく黒さ

寒熱虚実の分あり

熱実者
大連亮飲
或加大黄或加硝
寒虚者
調元解毒湯
加芍药

大連堯飲

○か符てふこあわぬ 餘毒あり

大連堯飲

○一身こころくくあちて 餘毒あり

大連堯飲加大黃

○發熱盛りして 餘毒盛る

○大便通せん

○小便赤くあつ

涼血攻毒飲

○ふこ出来て 急毒とあつ

甚者 甘露飲 又 涼隔散大劑

○口疳胃熱の〇〇〇〇 是も軽重あり

○口の内白くかたかた 是も軽重あり

○唇舌腫てかたかた 輕

爛入咽金不換吹之

○歯ぐき黒く 重

○痂の色ハかたかた 死

○鼻へあつく 死

大連堯飲 加吉將

○声 啞 肺經よ

腫痛

涼肝明目散

後二症

風捲雲

切忌外藥

釣藤湯

○眼赤きまじらむとび

解毒肝経よとらる

○赤くまじら痛て用とあてとらるあり

○かまじらてカミえとらるあり

○まじらてとらるいのでまかたあり

○晴つたよ

○晴くむ

不治
不治

○たちまち頭項大痛

解毒上之のあり
恐らく見入る

是は葉と扱へまじせしあり

○口

腹の痛臍かめぐり

風寒とらるあり

ひや汗雨のそく

風寒とらるあり
血と養ふべし

○口

○發熱やあらく

○頭熱して

面熱せず

○午の初ら熱して

午の甲熱せば

○豆のひら熱して

豆の甲熱せば

○精神がごとりとらるあり

○大小便とらる

○か

又

志のむせんのとら

虚

氣血の虚

補中益氣湯

八物湯

加風荆

有寒加桂建肌表
散勝理筋伏之火

実者
大連堯飲

白者
不木補氣煎必
死

○ふじゆらつわと

○紅紫

血熱

○紅き粉と吹らる如く

氣虚

○白く粉が吹らる如く

氣血衰

○白く雪のごとく

餘毒

虚 実

○癰 虚実の分あり

癰ハ癰の癰字ふまくと訓毒の癰を云ふ
をのふまてまこえ氣も内子実六毒のうちよ
まろふ所ろく一身のうちいせせだ空虚の地を
あね 弱て表へらるるうらてまのかさの所をやく
つらものろり

癰

連堯飲

外心勝膏貼之

○一身さるんふ實

○熱く食

實

○腫物いこまぬ

癰

○一身さるく

○食まらるく

虚

○熱まらるく

○腫物いこまぬ

癰

○吐写中す

○眼中さす

○唇白く

○うま水のがた

死

八物湯
加風刺連翹

落迦逆證

此症はうつろひうつろひの
うつろひうつろひのうつろひ

○うつろひうつろひ

○顔の色青く

○目のつらみまらう

○たちまち天せりつ死んで

○か不ほううとこうじき

○唇舌白き

○飲みのふむせび

○のふむせび

○腹うり

○痰せりつき

○頭あせのつ

○一病のまじりえぬうち

又一病生じ

○神氣のふんと気ぬけきつづく

○食まじり

○秘るまじ

○うら目つづひする

○おどろ死ひくつく

○口くまじ歯あたる

○胸高うしてせつづく

○膿血とまじ

死

*The Kunyinjio Hoshu
The Kunyinjio Hoshu*

○膿血とくまじ

○くろ死大便をくまじ

○氣のやりてむねとく

○ふくまじのあし

白き粉かきたるはく紅い死

○かせ後

瘡と生じ垢とす

○かせ後

瘡と生じ

内みじり有りの

十全大補湯
唇舌淡白
加熟附固陽氣
虛寒者
多附兼用

○經行とつらつらんちゆえ
瘡そぞろず

- ひかりつやろく
- 山とあびざ
- あつそろく
- るまろく
- ふろくふろく
- 白くふろく
- 青くかどく

裏虚

○崩漏

經行とどろくと
此時瘡を患はば
氣血不登して瘡と
なるすことあつす

十全大補湯
加熟附三片
不則塌倒不治

瘡
○白くひらろく

○月事大よ来

○瘡そぞろず

色白或はろくふろく

是壞症あり

解毒内托也

調元内托散
外用胡安酒噴之
瘡起發腫脹或於
空中再出一層瘡
大吉兆
若腫滿
寒戦
交牙
喘息
手足厥冷

○解毒内托して

○瘡山とあび

○膿とゆわ

○空ろつ野へ又瘡といふす

吉兆

先以當飯養心湯
養心血利心竅待
其能言以十全大補
湯調之
當飯養心湯
飯地麥升甘灯草

安胎飲 孕婦出痘最
要安胎
芩朮 飯翹 縮
殼甘 腹陳

安胎飲 初熱既退
諸症平準
芩朮 芩地
當勺 編蘇
陳甘

- 腫ふくま
- せりくせつらき
- あろえ
- 半豆ひえごゆ
- たをたまり

先

○瘡中ちちち
○經水よりの
にすかよ声つふまこののぬ
血と舌の心の臓の主なるところゆ
血さまび心の猶虚とゆ多よ舌の絡
脈血のうろちひることを舌自ら
まらぬるり

妊娠出痘

熱る胎心動くゆゆる自然と半産ま
半産ままはる気血不厚て瘡をこち
かこく膿漿とゆりぬりのるゆゆふ
胎とまをまむるふまをこちまをこち
すも初八丁子肉圭のゴを移つやくと
いふ

参藜飲の類にそ費散を

- 初熱
- 瘡のて後
- 別症のひま

安胎飲と用ひて
胎と安んむ

○のんごかろん

人參白朮散

○痘白

山あひ後

十全大補湯

木香糯米と加ふ

○熱あま

○かきつけつぐでく

内熱をひく

大黃石膏と用ふ

○痘の盛るる時

出産よ

勢必と氣血虚と

十全大補湯

○虚寒

○虚寒甚

前方加附子

參附の大劑

元胎の墮る熱の胎と動子より生むとのども
元氣さへんるる胎と動さずよりて胎の
あつる血熱と誤りて血熱とさす子を
第一とすべし是全氣虚ゆよりなり氣を
補ふと專一とすべし

○胎墮

○おとす

○でそりひ

○水うみ

○めんう

○かせ

此三節うみ

母ハ生

此節ハ

母多ハ危

此節ハ

妨さ

護痘錦囊正編

護痘錦囊藥方

編內所載藥方其下主治既具不再贅所不載者今具于茲

初熱

升麻葛根湯

又曰升麻湯

升麻 葛根 芍藥 甘草

加減益氣湯

黃芪 人參 白朮 陳皮

甘草 當歸 升麻 桔梗 姜煎 川芎

荊防敗毒散

獨活 羌活 荊芥 茯苓

柴胡 前胡 枳殼 桔梗 川芎 防風 連翹 甘草 金花銀薄荷

清解散

升麻 連翹 山梔 甘草

黃連 黃芩 紫蘇 木通 牛蒡子 姜煎

溫中益氣湯

人參 白朮 白芷 防風

黃芪 當歸 桂枝 茯苓 甘草 川芎 木香 山查 姜棗水煎

雙豆帛

藥方

七十五

疏肝透毒散

強蚕 蟬退 薄荷 釣藤 青皮 木通
前胡 山查 羌活 荆芥 燈心草 姜煎

導赤散

木通 地黄 燈心 引煎 腹辰砂末 送下 可或加蟬退 牛房子

涼膈散

連翹 山桅子 大黃 薄荷 水浸八竹葉七片 蜜少
黃芩 芒硝 甘草 許煎七分 食後溫服

甘桔湯

甘草 桔梗 一方加參 荆芥 牛房子 麥門 山查根

涼血攻毒飲

大黃 荆芥 木通 牛房子 牡丹皮 紫根
芍藥 葛根 蟬退 青皮 紅花 地黄
如燈心分煎服如參血甚者大黃為君加桃仁每劑和桑葉汁日服二劑

清涼攻毒飲

石膏 黃連 大黃 木通 紅花 荆芥 燈心水煎
牛房 犀角 丹皮 青皮 地黄 紫花地

當歸補血湯

黃芪 當飯

加味升麻葛根湯

葛根 升麻 芍藥 甘草 桔梗 姜煎熱服取汗
防風 蘇葉 川芎 山查 牛房

加味參蘇飲

人參 蘇葉 川芎 桔梗 前胡 陳皮
甘草 茯苓 半夏 牛房 山查 葛根

麻黃解表湯

麻黃 升麻 羌活 葛根 防風 水煎入燒人糞同服
荆芥 蟬退 牛房 桔梗 甘草

射干鼠粘子湯

牛房 甘草 升麻 射干

參麥清補湯

人參 麥門 葛根 黃芪 前胡 牛房 甘草
炙甘 芍藥 酒炒芍藥 當飯 紅花 川芎
地黄 桔梗 山查 生姜片 龍眼肉 三個同煎

見点

和鮮湯

升麻 芍藥 葛根 人參 姜煎
川芎 防風 羌活 甘草

加減升麻湯

升麻 葛根 芍藥 甘草 前胡 姜蔥水煎
紫蘇 當歸 連翹 桔梗

十神鮮毒湯

當歸 川芎 地黃 紅花 丹皮 燈心水煎
連翹 芍藥 桔梗 木通 大腹皮

清毒活血湯

紫草 當歸 前胡 牛房 木通 連翹 地黃
芍藥 桔梗 黃芩 黃連 甘草 山查 人參
黃芪 姜煎煩渴者太參芪加麥門天花粉

固陽散火湯

人參 黃芪 當歸 升麻 葛根 連翹
防風 地黃 木通 荊芥 甘草

人參飯芪湯

黃芪 人參 甘草 當歸 川芎
桂枝 山查 紅花 白朮 姜煎氣滯者少加木香

十全大補湯

當歸 川芎 芍藥 地黃 人參 姜棗水煎
白朮 茯苓 甘草 黃芪 肉桂

大保元湯

黃芪 人參 甘草
桂枝 白朮 川芎 姜棗水煎氣滯者加木香山查去桂不食者加人乳半鍾

木香散

桂枝 青皮 木香 人參 腹皮 茯苓 姜煎
前胡 半夏 丁子 甘草 訶子

異功散

木香 肉桂 當歸 人參 白朮 陳皮 姜棗煎
厚朴 丁子 茯苓 肉桂 熟附子 半夏

神效散

各見味神散
黃芪 人參 芍藥 紫草 地黃 紅花
前胡 牛房 甘草 熟芪者去參芪加麥門有驚搐者加蟬退

四聖膏

珍珠五 豌豆燒 髮灰各
雄黃八 紫草半 冰片三
細末油胭脂調別破疔頭點之

清熱解毒湯

荊芥 紅花 蟬退 木通 牛房 丹皮 青皮
地黃 山查 滑石 前胡 黃連 紫花地丁 灯心

四物湯

當歸 芍藥 地黃 川芎

保元湯

人參 黃芪 甘草
姜煎

千金內托散

人參 當歸 黃芪 芍藥 川芎 挂枝
炙甘 山查 木杏 甘草 白芷 厚朴
姜片龍眼肉三箇入好酒和服又參芪內托散此方中去山查
生薑龍眼加桔梗

奪命五毒丹

蟾蜍少 牛黃二 硃砂一
雄黃三 冰片一
用猪尾瓦薄荷湯下
火毒內攻衝心者有神功

辰砂益元散

滑石 甘草 辰砂
末服

挂枝葛根湯

葛根 挂枝 芍藥
升麻 防風 甘草
加生薑淡豆豉煎服寒月加麻黃

錢氏白朮散

人參 白朮 茯苓 木香
藿香 葛根 甘草

潔古白花蛇散

白花蛇二兩炙 細末酒熱服 熱毒者忌之
丁子三十粒

內托散

千金內托散參芪內托散之類詳千金內托散

安神丸

當歸 黃連 茯苓 麥門
甘草各半兩辰砂兩龍腦二分半
細末湯浸蒸餅攪勻搗勻如粟米大每服十九燈湯下

四陽返本湯

人參 黃芪 鹿茸 當飯 川芎
肉桂 甘草 山查 熟附子 大棗
水煎

建中湯

又云聶氏建中湯
人參 黃芪 白朮 當飯 川芎
附子 乾姜 肉桂 炙甘 丁子
姜煎

七味豆蔻丸

木香 縮砂 蓬萊 赤石脂 白礬各半錢
訶子 龍骨 肉豆蔻各五錢半 糊丸

一粒金丹

臘胸臍 二雅片 三冰片 二
麝香 一原蚕蛾 二糊丸 金箔為衣

參芪鹿茸湯

鹿茸 黃芪 當飯
人參 炙甘
右姜龍眼肉同煎去滓入好酒盃溫服

白龍膏

用乾牛糞久在風露中者火煨成灰取中心白者為末薄絹囊裹於瘡上撲之

四君子湯

人參 白朮
茯苓 甘草

忍冬解毒湯

金銀花 貝母 菊花 荊芥 牛房
紅花 甘草 木通 連翹 紫花地丁
加胡批煎服

大連翹飲

連翹 牛房 柴胡 芍藥 防風 木通 當飯
車前 荊芥 黃芩 山梔 滑石 甘草 蟬退

保嬰百補湯

當飯 地黃 白朮 人參
茯苓 山藥 甘草 芍藥
東煎

除濕湯

羌活 蒼朮 防風 芍藥 猪苓
澤瀉 白朮 甘草 桂枝

收醫

灌膿

雙豆帛

藥方

七十九

汪氏解毒飲

當飯 芍藥 人參 山查 黃芪
荊芥 牛房 防風 炙甘

利咽解毒湯

山查 麥冬 玄參 桔梗
牛房 防風 甘草 姜煎

四順清涼

當飯 芍藥
大黃 甘草

生肌散

黃連 黃柏 五倍子
地骨皮 甘草 細末搽之

補中益氣湯

人參 黃芪 當飯 柴胡
升麻 白朮 甘草 陳皮 湯加麥冬五味水煎

調元解毒湯

當飯 川芎 芍藥 白朮 茯苓
甘草 桔梗 連翹 木通 山藥 姜煎

甘露飲

麥門 天門 天花粉 茵陳 生地 熟地
枳殼 枇杷葉 石斛 黃芩 甘草

金不換

走馬疳吹藥
人中白 枯礬 各 鹽梅 七個 煨存性 和胭脂水塗之 亦可
五倍子 白礬 煨 胡黃連 各二錢
雄黃 銅錄 各五錢 和吹之

靈棗丹

走馬牙疳一切疳
小青蝦蟆 不拘多少 生礬各五錢
黑棗 十枚 去核 共搗爛 鹽泥封固 煨存性 為細末 敷之

涼肝明目散

又云涼肝散
當飯 川芎 柴胡 龍膽
黃連 防風 蜜蒙花

風捲雲

夜明砂 蟬退
蜜蒙花 谷精草 各五錢
共末 每用一錢 用豬肝 兩披 開擦
藥在內 約定水 煮連湯 用之

釣藤湯

陳皮 釣藤 牛膽南星
天麻 姜蚕 人參 燈心水煎 臨時加牛黃真珠
遠志 犀角 石膏根

必勝散

大黃 荊芥 芍藥 青皮 地黃
山查 木通 防風 桃仁 紫花地丁 水煎
蟬退 葛根 地龍 紅花 芦根

八物湯

當飯 川芎 芍藥 地黃
人參 白朮 茯苓 甘草

瀉肝散

羌活 當飯 山梔 龍膽
川芎 防風 大黃
一方有木通柴胡黃芩
無大黃

柴胡四物湯

柴胡 人參 黃芩 當飯 川芎 水煎
地黃 芍藥 地骨皮 麥門 淡竹葉

涼血四物湯

當飯 芍藥 地黃 黃芩 紅花
黃連 連翹 牛房 甘草

調元內托散

起發泡漿之時月事來者不發者不灌平塌或白或黑陷者
黃芪 人參 當飯 桂枝 木香
青皮 芍藥 牛房 川芎

當飯養心湯

痘中經水忽行暴瘡不語者
人參 當飯 升麻 燈心水煎
地黃 甘草 麥門

安胎如聖散

孕婦出痘最要安胎
黃芩 白朮 當飯 連翹 砂仁 枳殼
甘草 大腹 陳皮 桑樹上羊兒藤 水煎

安胎飲

初熱既退諸症平準者
人參 白朮 黃芩 地黃 川芎 當飯
芍藥 砂仁 紫蘇 陳皮 甘草 姜棗水煎

安胎飲

痘出定後無餘證者
人參 陳皮 大腹 茯苓 砂仁
芍藥 紫蘇 香附子 甘草 糯米煎
如有汗去蘇加黃芪胎漏者加阿膠百草霜交紅花

聶氏建中湯 建中湯同

出痘 妊娠

出痘 婦人

九味神功散

神功散同

發熱疑似之間

惺々散

人參 白朮 茯苓 天粉粉
桔梗 細辛 薄荷 甘草

加減排膿湯

當飯 川芎 芍藥 人參 陳皮
甘草 白芷 山查 木通 桔梗

餘毒上攻眼目生翳羞明眩決俱多紅赤腫痛者

羚羊角散

羚羊角 黃芩 黃芪 草決明 車前
升麻 芒硝 大黃 防風

咽喉腫痛飲食不入者

玉鎖匙

明砂 剉 扑硝 五合
姜蚕 一條 片腦 五厘
細末以竹管吹之

血至而氣不至邪熱不長或平或陷不亮肥者

竇氣散

丹皮 薄荷 青皮 山查 穿山甲
牛房 木通 芍藥 強蚕 蟬退
加苦荬抹臨服藥蟲汁

初熱之時腹痛腰痛煩悶者

敗毒和中散

蓮翹 牛房 黃連 枳殼 防風
前胡 桔梗 紫草 蟬退 川芎
木通 升麻 甘草 麥門

鬼米糞丸

痘入眼或生翳障者

石決明 草決明 木賊 白芍 兔屎

防風各錢 當飯五錢 穀精草二錢

右蜜丸如茶豆大二五十九丸 煎湯送下

痘後羞明者

肝明目散

當飯 龍膽 川芎 蜜蒙花 防風 柴胡
黃連

各等分 雄豬肝煮湯煎服 一方加蟬退

景當飯四逆湯

當飯 桂枝 芍藥 木通
細辛 大棗 甘草

風通聖散

防風 荊芥 連翹 麻黃 薄荷 滑石
白朮 山梔 大黃 芒消 石膏 黃芩
桔梗 甘草 川芎 芍藥 當飯

散

人參 編砂 半夏 白朮 茯苓
藿香 陳皮 甘草 干姜

藥方

上旨不至齋藏

湯

人參

姜棗水煎 虛痘四日後諸症不穩者

參附湯

人參

兩

熟附

二錢或

姜棗水煎 五日後純陰無陽者

長野縣下
水内郡飯山
町藥種商
森器之印

護痘錦囊正編終

四庫全書

